

平成25(2013)年1月28日

東北大学片平キャンパス南地区（一部）売買契約締結に係る記者発表について  
平河内健治東北学院理事長 コメント

学校法人東北学院理事長の平河内でございます。本日は記者発表の席にお集まりをいただき心から感謝申し上げます。

只今、里見東北大学総長から冒頭でご紹介がありました通りの経緯で、本日、東北大学と東北学院両者が片平校地南地区の一部の売買の契約をいたしました。東北学院としては、東北大学が青葉山県有地取得の際に、片平キャンパスから青葉山新キャンパスへの移転後には、片平校地跡地を県民・市民のために用いるところに譲渡するという東北大学側の当初計画の趣旨の一端を担い、学都仙台の中心的役割を東北大学と共に果たすことを強く希望して、土地交渉を(非公式接触を含め)およそ10年に渡り進めてまいりましたので、震災という止むを得ざる事情によるとは言え、白紙撤回は、返す返すも残念に思っております。

しかし、井上明久前総長や里見進現総長等からのご理解とお計らいをいただき、当初の7分の1ではありますが、一部取得が可能となり、東北学院としては、この土地の利用によって、老朽化した土樋キャンパスの建物の建て替えが順次可能となり、東北学院大学総合キャンパス整備事業を進展させる意味で、大きな一歩を踏み出せることができるようになりました。

この実現のために尽力された両大学法人関係者や地域の有識者の方々に心より感謝申し上げます。ここに教育研究施設をつくり、より美しいキャンパスを形成し、隣接する東北大学と共に地域そして世界の学術・文化・福祉に貢献して行きたいと願っております。

中長期的には、もしさらなる隣接土地取得が可能であれば、片平キャンパス南地区取得計画にあった大学キャンパス統合を可能な限り実現し、アクセスのよい、アメニティ豊かな美しいキャンパスを都市中心部に集約し、学術・文化情報の発信と共有、そして、人間の学び合いの交流センターとして地域と世界に貢献をすることが、建学の精神である、地の塩・世の光としての使命であると信じて、無償の愛の奉仕となる教育事業を続けてまいりたいと念願しております。世界に通用するキリスト教の普遍的価値観を有する知恵と協調力に富む人材育成にこれからも務めたいと存じます。

皆様の一層のご援助・ご協力・ご鞭撻をお願いして、ご挨拶とコメントといたします。有難うございました。